

世界が進むチカラになる。



2023年度第1四半期 決算ハイライト

2023年8月1日

キーメッセージ

- 2023年度第1四半期の業務純益は**5,566億円（前同比+1,314億円）**、通期目標14,500億円に対する進捗率は**38%**。
稼ぐ力向上のモメンタムは継続、顧客部門の営業純益はMUBの売却影響を打ち返し、**前同比+1,112億円**。
- 親会社株主四半期純利益は、業務純益の増益に加え、持分法適用会社であるMorgan Stanleyの持分法適用決算期の変更^{*1}や円安の影響等もあり、**5,583億円（進捗率43%）**と通期目標13,000億円に向け、順調なスタート。

^{*1} 23年度よりMSの持分法を適用する決算期を従来の1月-12月から4月-3月へ変更。当該変更に伴い、23年1QはMSの23年1Q（2023年1月-3月）決算を含む6か月間の損益を取込。23年度決算では15か月間の損益を取込予定であり、当該変更に伴う影響金額は為替等の影響で変動する可能性あり

連結P/L

(億円)	22年1Q	23年1Q	増減	MUB評価損調整後*1
1 業務粗利益 (信託勘定償却前)	11,248	① 12,413	1,164	-
2 資金利益	9,868	5,841	▲ 4,026	-
3 信託報酬+役員取引等利益	3,691	4,014	322	-
4 特定取引利益+その他業務利益	▲ 2,312	2,556	4,869	-
5 うち国債等債券関係損益	▲ 4,061	498	4,559	-
6 営業費 (▲)	6,996	② 6,846	▲ 149	-
7 業務純益	4,251	5,566	1,314	-
8 与信関係費用総額	▲ 739	▲ 416	323	▲ 119
9 株式等関係損益	190	437	247	-
10 株式等売却損益	654	451	▲ 203	-
11 株式等償却	▲ 464	▲ 14	450	-
12 持分法による投資損益	1,230	③ 1,999	768	-
13 その他の臨時損益	▲ 2,303	④ ▲ 330	1,972	836
14 経常利益	2,629	7,255	4,626	3,047
15 特別損益	▲ 219	▲ 225	▲ 6	-
16 法人税等合計	▲ 1,071	▲ 1,275	▲ 203	-
17 親会社株主四半期純利益	1,136	⑤ 5,583	4,447	2,868
18 1株当たり利益 (円)	9.03	46.44	37.41	-
(ご参考)				
19 ROE (MUFG定義) *2	2.93%	13.15%	10.22%	-
20 経費率	62.1%	② 55.1%	▲ 7.0%	-

① 業務粗利益

- 資金利益は、外貨預貸金収益を中心に増加も、前年の投信解約益4,442億円の剥落やMUB売却影響等もあり前同比減収
- 海外の融資関連手数料増加を主因に役員取引等利益が増収
- 前年に計上したポートフォリオ組換えに伴う国債等債券関係損益▲4,061億円の反動及び、相場変動を捉えたトレジャリー収益やセールス&トレーディング収益の増加で、特定取引利益及びその他業務純益は増収
- 結果、業務粗利益は前同比+1,164億円増加

② 営業費・経費率

- 営業費はMUB売却の影響もあり、前同比▲149億円減少
- 経費率は業務粗利益の増加に伴い55.1%と前同比▲7.0%

③ 持分法による投資損益

- MSの持分法適用決算期変更影響*3により、前同比+768億円

④ その他の臨時損益

- 前年のMUB保有債券等の評価損影響の剥落により、前同比+1,972億円

⑤ 親会社株主四半期純利益

- 親会社株主四半期純利益は、前同比+4,447億円増益の5,583億円

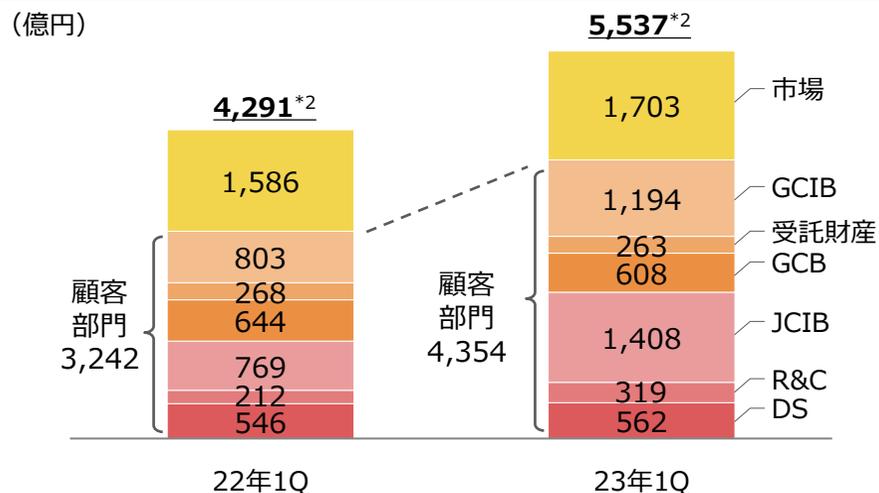
*1 MUB保有資産の評価損等として22年1Qに計上した2,596億円(税後)のうち、22年度決算で特別利益として戻入となった金額を調整。与信関係費用総額：442億円、その他臨時損益：1,136億円、経常利益：1,579億円、親会社株主四半期純利益：1,579億円 *2 MSの持分法適用決算期変更影響除きでは11.3% (概算値)

*3 23年度よりMSの持分法を適用する決算期を従来の1月-12月から4月-3月へ変更。当該変更に伴い、23年1QはMSの23年1Q(2023年1月-3月)決算を含む6か月間の損益を取込。23年度決算では15か月間の損益を取込予定であり、当該変更に伴う影響金額は為替等の影響で変動する可能性あり

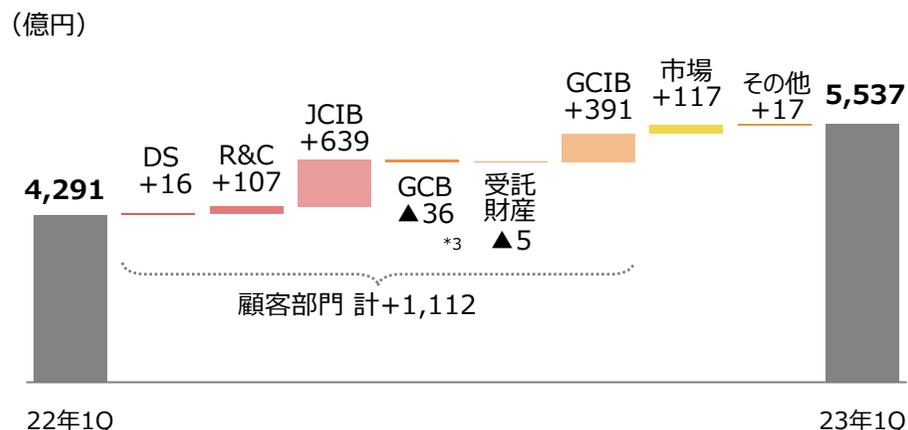
事業本部別業績①

【連結】

事業本部別営業純益*1



営業純益増減内訳



業績概要

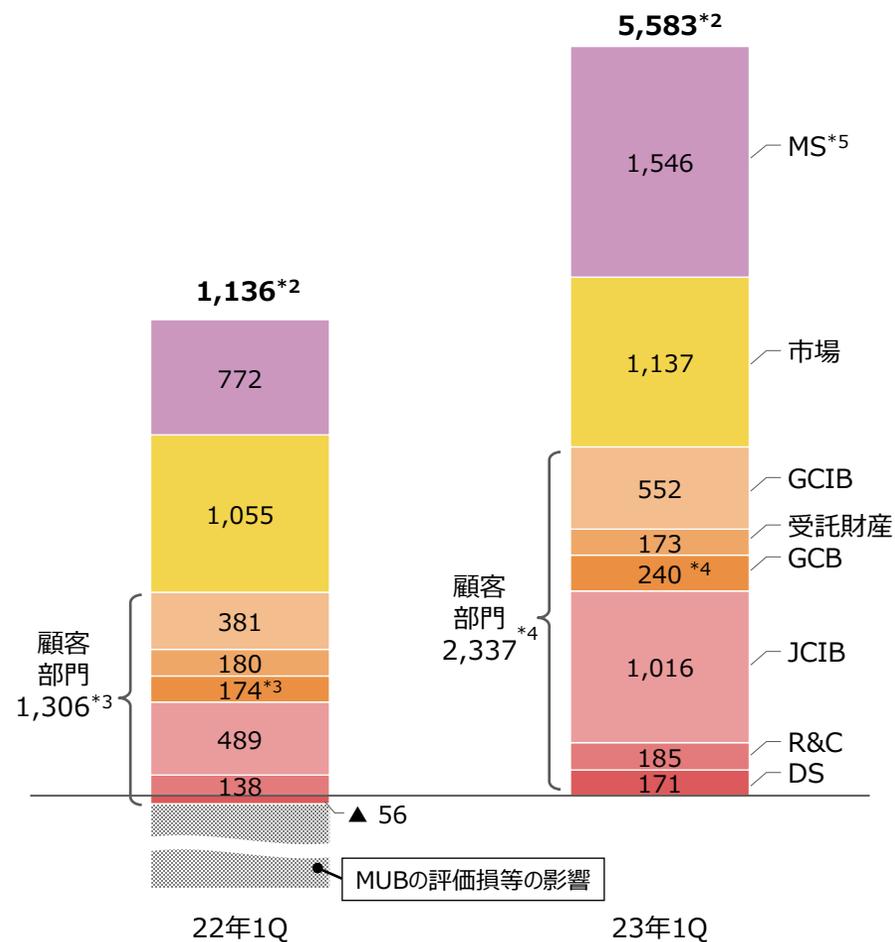
DS	コロナ禍からの経済回復に伴うCF*4の残高増加やカード決済の取扱高増加、金利上昇に伴う外貨預金収益の増加等により増益
R&C	金利上昇を捉えた利ざや改善による外貨預金収益の増加や、法人向け貸出の残高増加や利ざや改善、LBO*5を中心としたソリューションの案件積上げで増益
JCIB	海外金利上昇や貸出利ざや改善による国内外預貸金収益の増加や、証券プライマリーの回復、オリジネーション力強化に伴うソリューションの案件積上げで増益
GCB	MUB株式譲渡による影響で全体では減益も、KS・ダナモン銀行は貸出残高の積上げに加え、政策金利上昇や利ざや改善による金利収益増加等により増益
受託財産	グローバルIS*6をはじめ国内外での取引増加により粗利は増加するも、AlbaCore Capital Groupの買収に伴う経費増等により減益
GCIB	プロジェクトファイナンスをはじめ各地域で手数料収益が好調、金利上昇や利ざや改善による預貸金収益の増加等もあり増益
市場	顧客ビジネスは相場変動を捉え、着実にフロー取引を獲得し増益。トレジャリーは厳しい金利環境が継続も、機動的なポジション伸縮で売却益を計上し増益

事業本部別業績②

【連結】

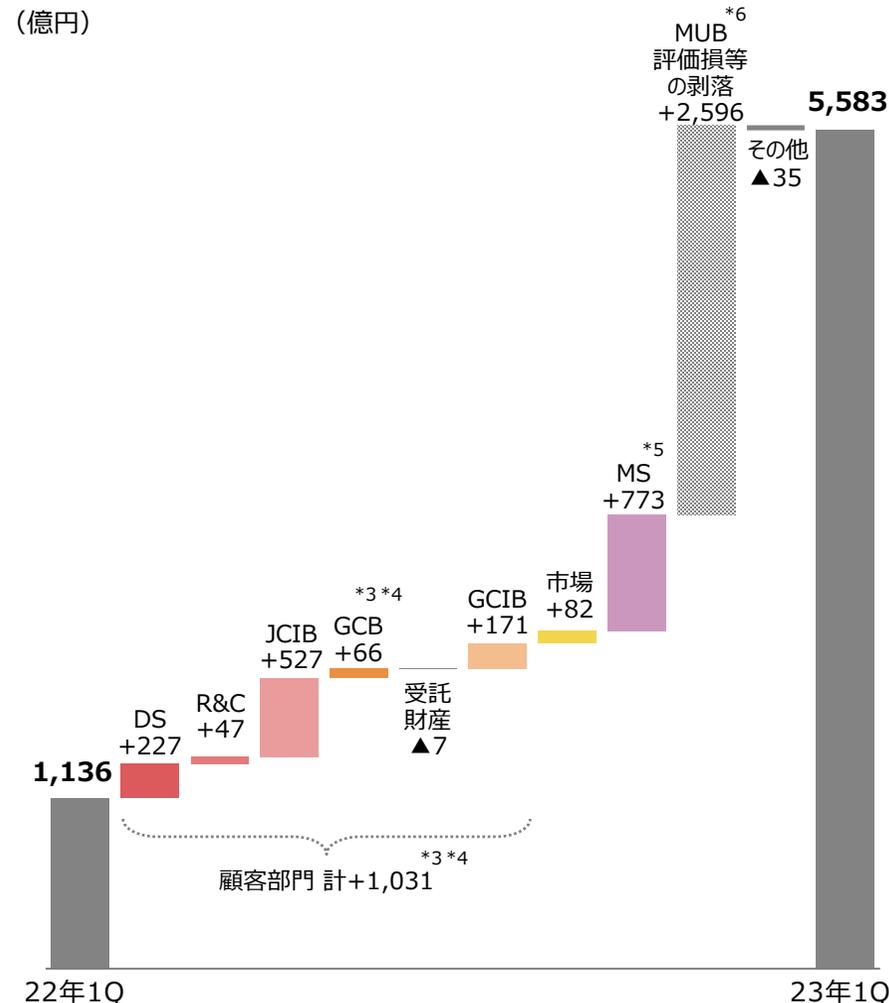
事業本部別当期純利益*1

(億円)



当期純利益増減内訳

(億円)

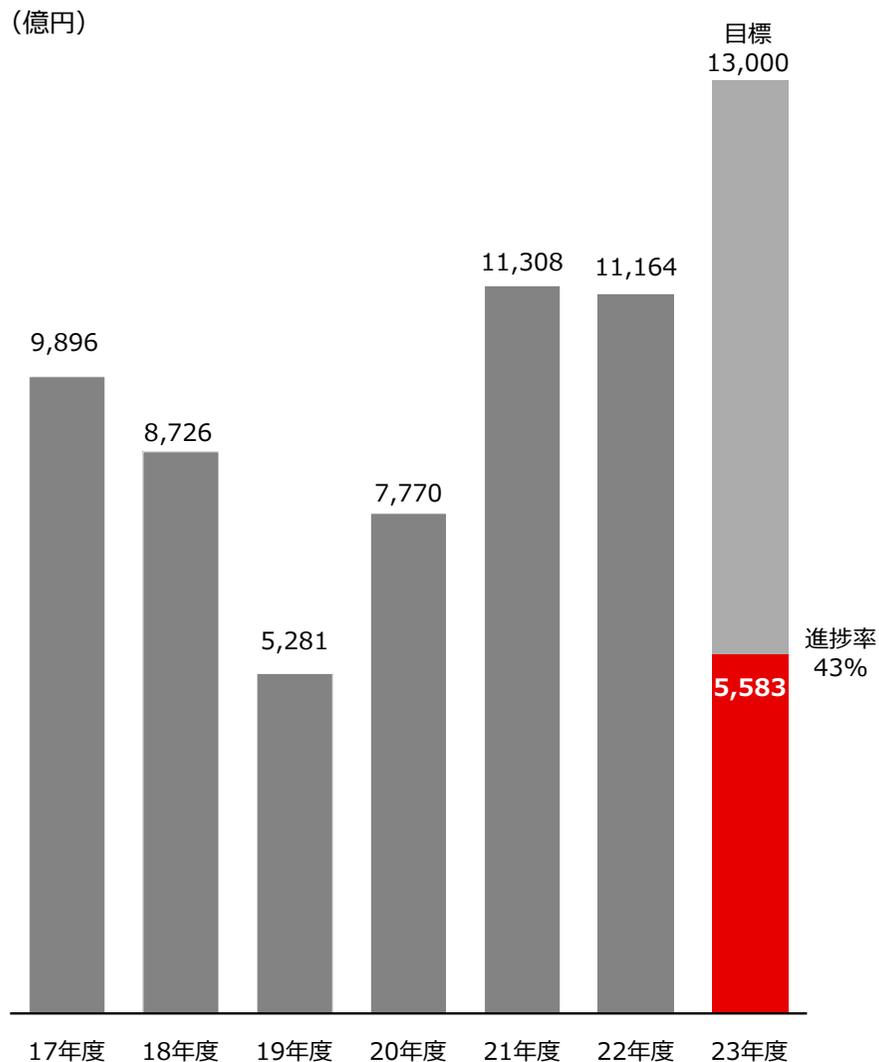


*1 事業本部計数は社内管理上の当期純利益（速報値）。現地通貨ベース *2 その他（22年1Q:599億円、23年1Q:563億円）を含む *3 MUBの評価損等の影響を除く
 *4 MUB売却影響約23億円を含む *5 持分法適用決算期の変更に伴う影響795億円（MSの23年1Q（2023年1月-3月）決算に基づく取込損益額の試算値）を含む
 *6 MUB保有資産の評価損等として22年1Qに計上した金額（税後）

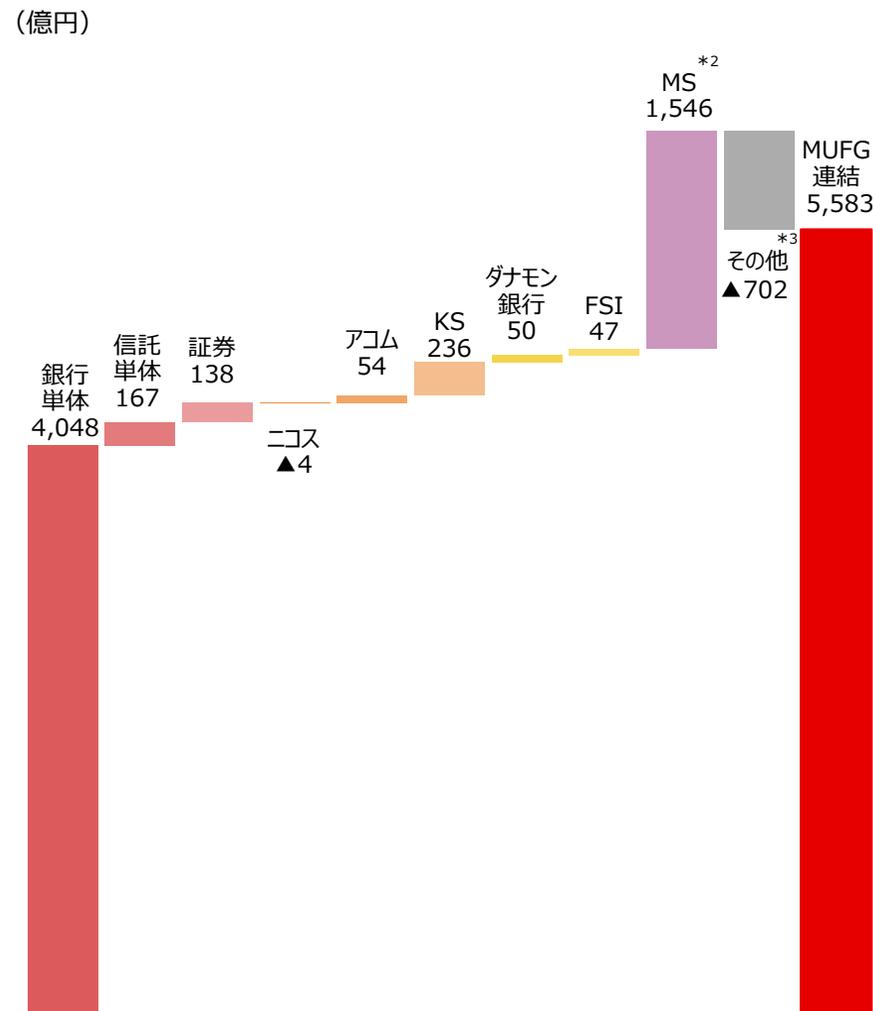
業績目標進捗率と業態別内訳

【連結】

親会社株主純利益の推移



親会社株主四半期純利益内訳*1



B/Sの概要

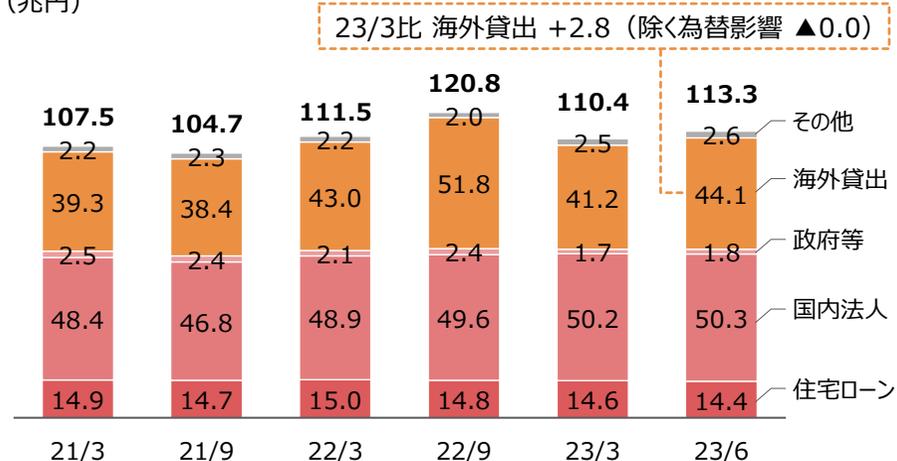
【連結】

連結B/S

(億円)	23年6月末	23年3月末比
1 資産の部合計	3,874,522	6,527
2 貸出金（銀行勘定+信託勘定）	1,133,340	29,099
3 貸出金（銀行勘定）	1,121,526	30,063
4 うち住宅ローン ^{*1}	144,686	▲1,636
5 うち国内法人貸出 ^{*1*2}	503,043	537
6 うち海外貸出 ^{*3}	441,136	28,857
7 有価証券（銀行勘定）	820,895	▲46,573
8 うち国内株式	56,251	4,767
9 うち国債	345,266	▲25,061
10 うち外国債券	233,226	▲23,008
11 負債の部合計	3,682,739	▲2,526
12 預金	2,165,878	29,783
13 うち個人預金（国内店） ^{*4}	920,085	11,539
14 うち法人等預金 ^{*4}	807,793	▲13,626
15 うち海外店その他子会社等預金	437,998	31,870
16 純資産の部合計	191,782	9,054
17 銀行法及び再生法に基づく債権 ^{*5}	15,785	151
18 不良債権比率	1.24%	▲0.02%
19 その他有価証券評価損益	15,948	1,746

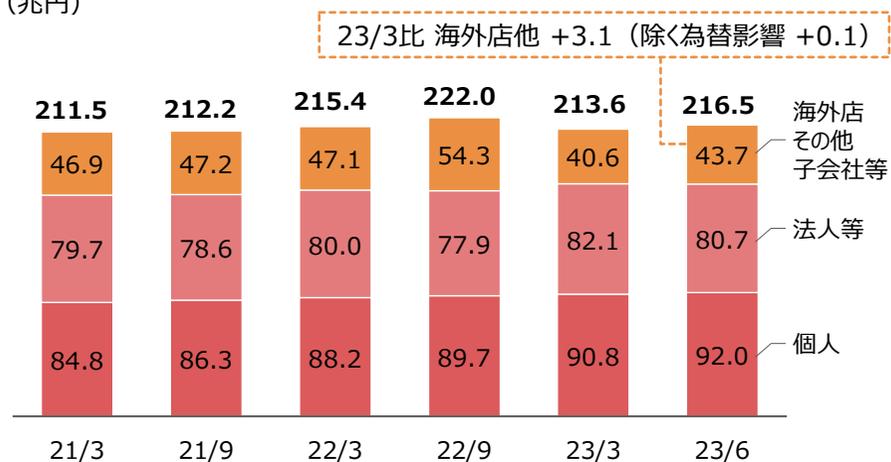
貸出金推移（未残）

(兆円)



預金推移（未残）

(兆円)



7

*1 2行合算+信託勘定 *2 政府等向け貸出除く、外貨建貸出を含む（除く為替影響：23年3月末比 ▲0.4兆円）

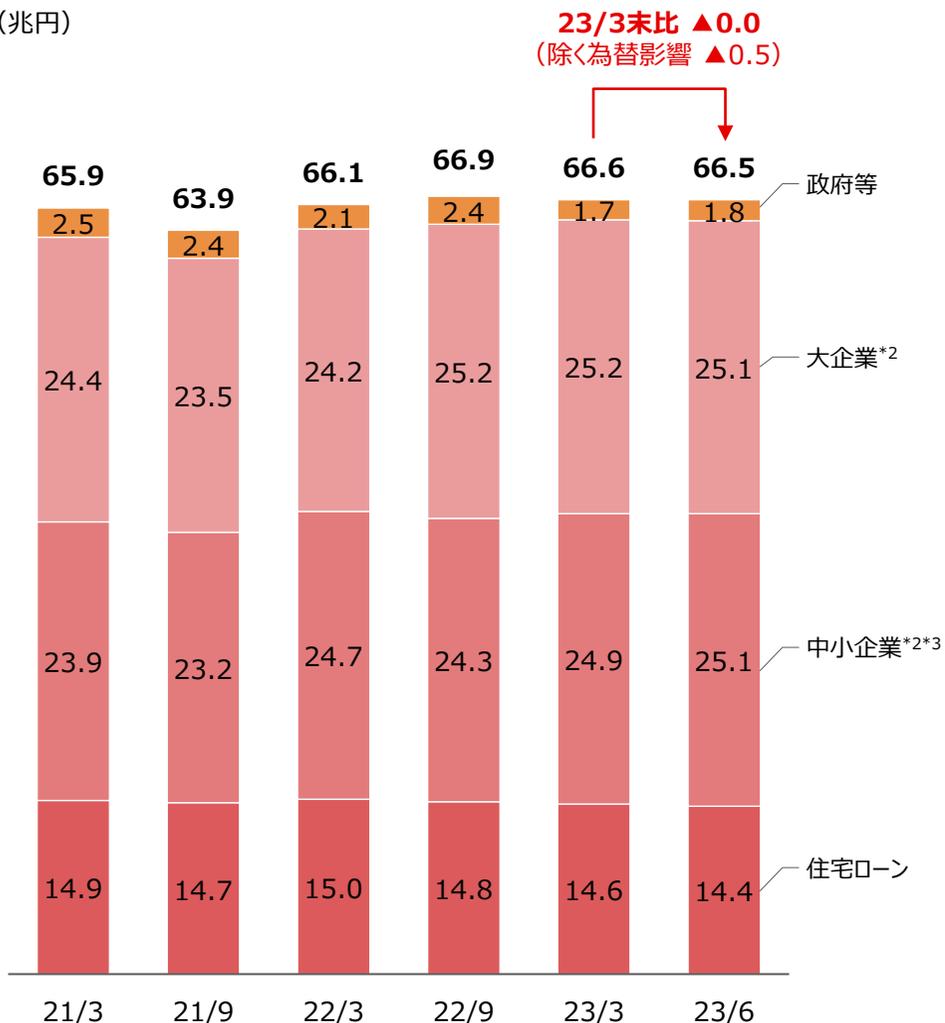
*3 海外支店+MUAH+KS+ダナモン銀行+MUFGバンク（中国）+MUFGバンク（マレーシア）+MUFGバンク（ヨーロッパ） *4 2行合算 *5 正常債権を除く

国内貸出金

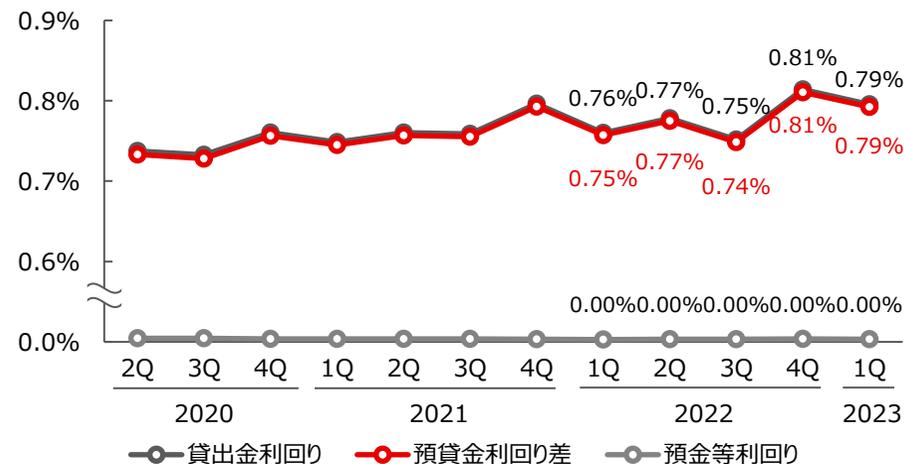
【連結・2行合算】

貸出金（未残）*1

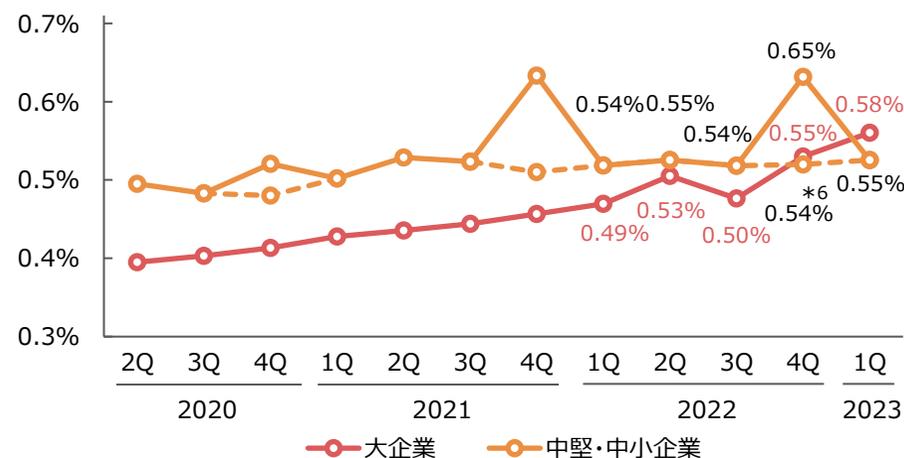
(兆円)



国内預貸金利回りの推移*4



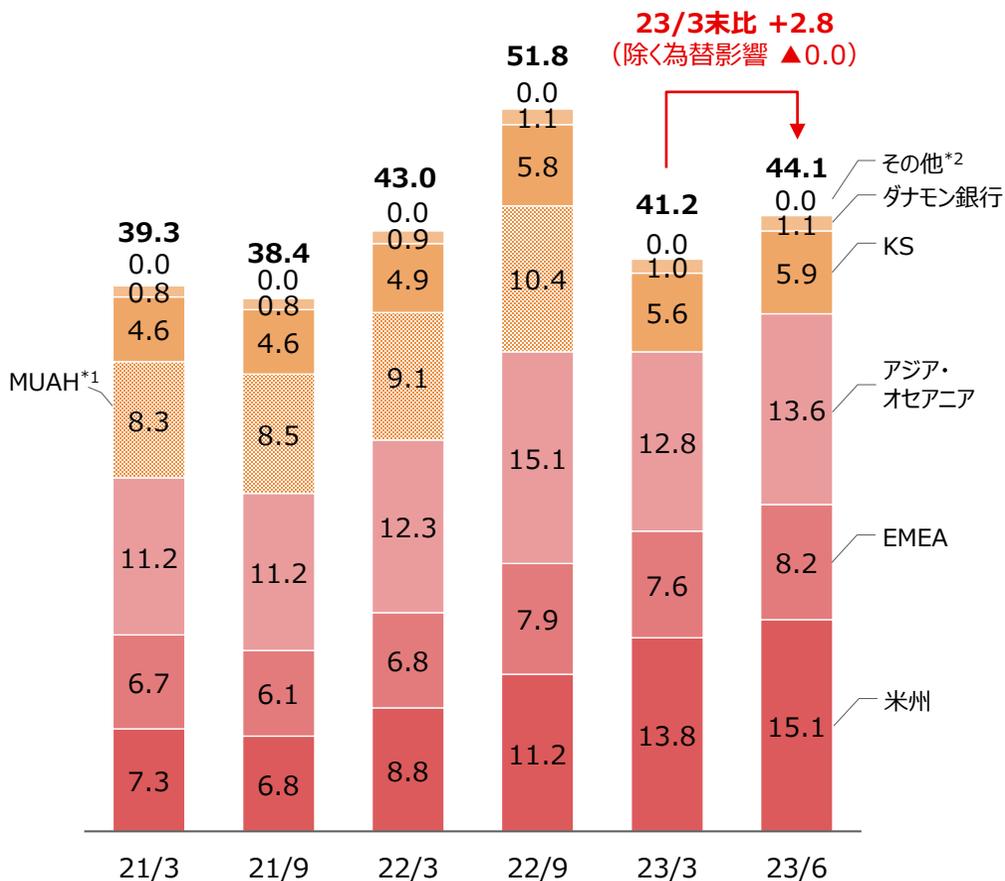
国内法人貸出利ざや*2*4*5



海外貸出金

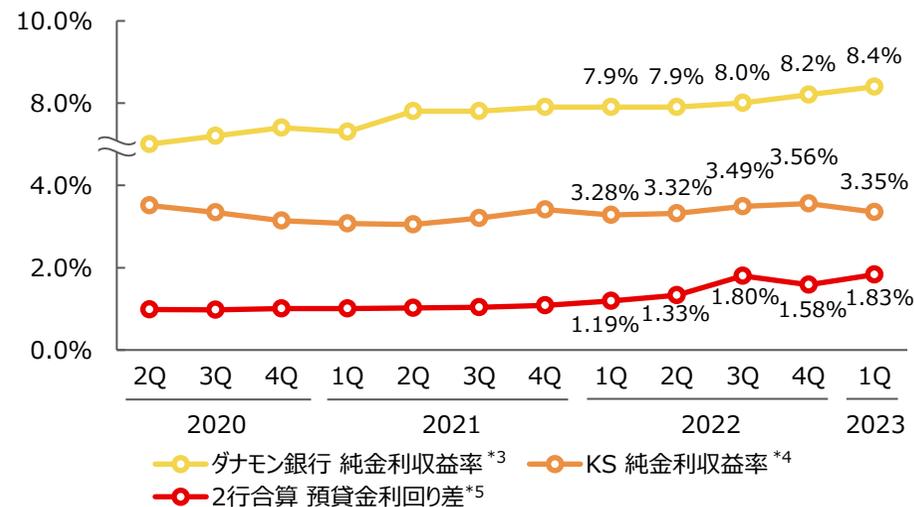
貸出金（未残）

(兆円)

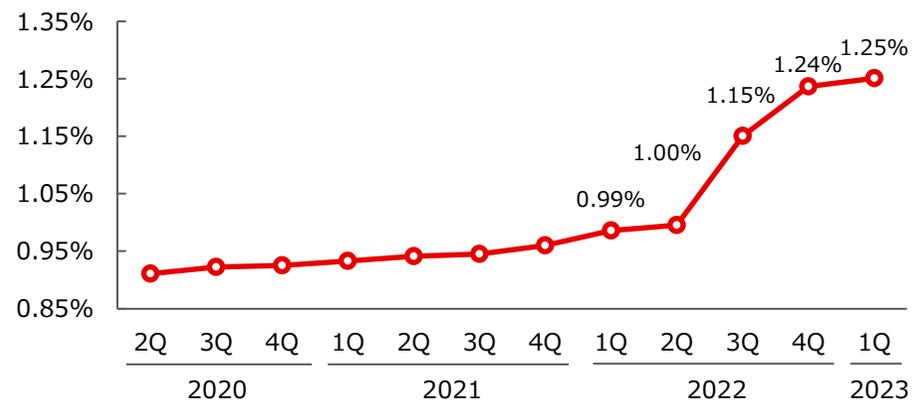


【連結・2行合算】

海外利回り等の推移



海外貸出利ざや*5



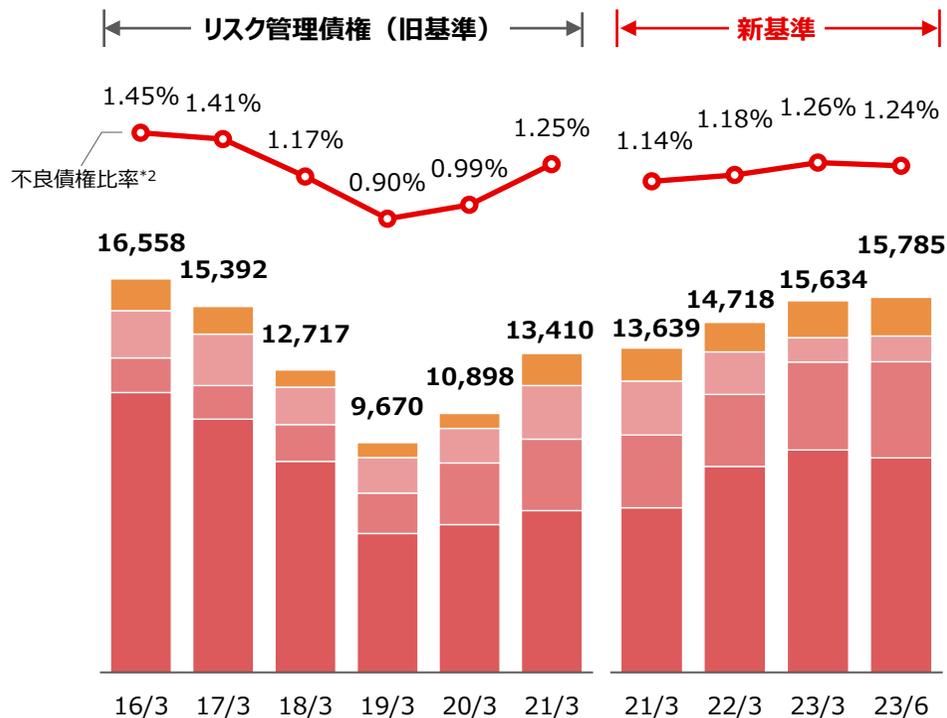
*1 23/3期より「MUAH」は「米州」に含まれる。MUB株式譲渡に伴い2.7兆円（概算値）が海外店に移管
 *2 特別国際金融取引勘定等
 *3 インドネシア会計基準に基づくダナモン銀行の決算報告書における財務情報。21年1Qより算出方法を変更し、本資料では過去分についても遡及修正
 *4 タイ会計基準（2020年1月1日よりIFRS 9を適用開始）に基づくKSの決算報告書における財務情報
 *5 社内管理上の計数。2行合算

貸出資産の状況

【連結】

銀行法及び再生法に基づく債権（正常債権を除く）*1

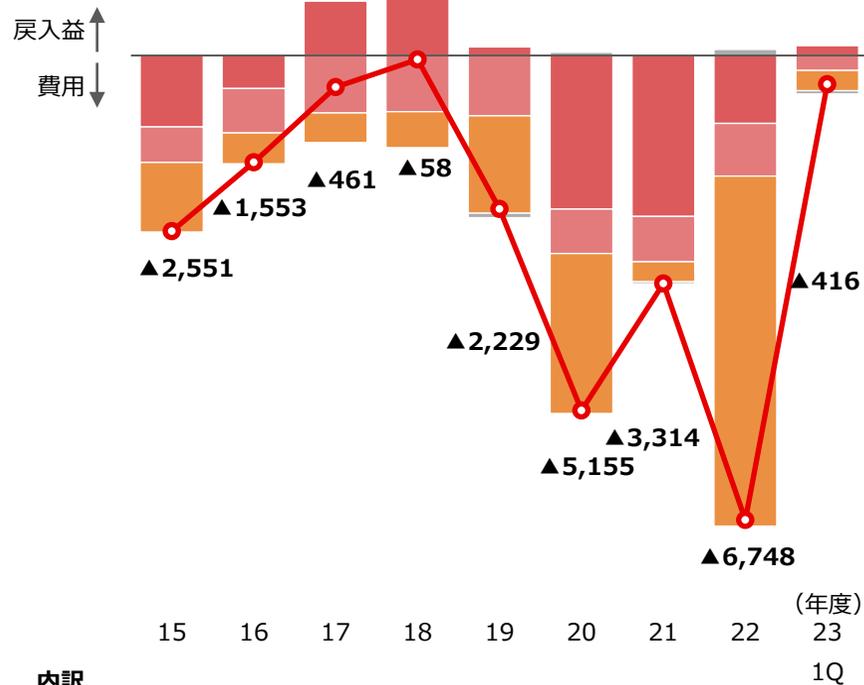
(億円)



内訳	16/3	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	21/3	22/3	23/3	23/6
EMEA	1,339	1,160	713	640	637	1,347	1,387	1,240	1,552	1,635
米州	1,994	2,160	1,575	1,482	1,455	2,247	2,267	1,781	1,021	1,082
アジア	1,453	1,423	1,558	1,703	2,591	3,005	3,058	3,029	3,702	4,041
国内	11,771	10,647	8,870	5,843	6,213	6,809	6,925	8,666	9,358	9,025

与信関係費用総額

(億円)



内訳	15	16	17	18	19	20	21	22	23
2行合算	▲1,037	▲479	795	1,298	126	▲2,232	▲2,338	▲988	141
CF*	▲516	▲645	▲836	▲817	▲876	▲644	▲660	▲765	▲219
海外*	▲1,008	▲450	▲427	▲523	▲1,416	▲2,323	▲289	▲5,083	▲293
その他*	10	21	8	▲15	▲62	45	▲26	89	▲44

*1 「リスク管理債権」の定義が「金融再生法開示債権」の定義と同一となったため、銀行法及び再生法に基づく債権として開示。地域は債務者の所在地による区分
 *2 銀行法及び再生法に基づく債権（正常債権を除く）残高 ÷ 銀行法及び再生法に基づく債権残高（旧基準はリスク管理債権残高 ÷ 貸出金残高（銀行勘定、未残））
 *3 ニコスとアコム連結ベース合算
 *4 銀行および信託の海外連結子会社の合算。子会社の決算日（2023年3月末）の財務諸表により連結している主要な在外子会社の23年2Q（2023年4月-6月）における与信関係費用総額は、現時点の見積もりでは、総額4百億円程度発生する見込み。当該与信関係費用総額はMUFGの23年2Qに反映される予定
 *5 その他子会社および連結調整等

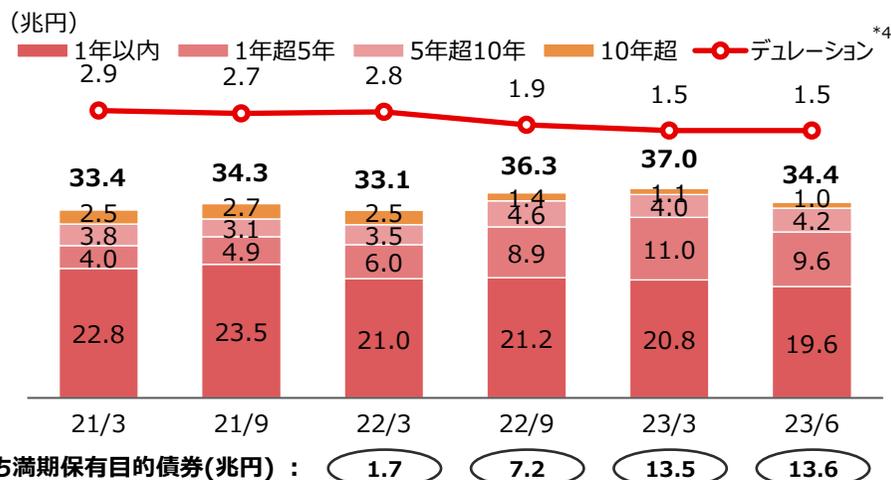
保有有価証券の状況

【連結・2行合算】

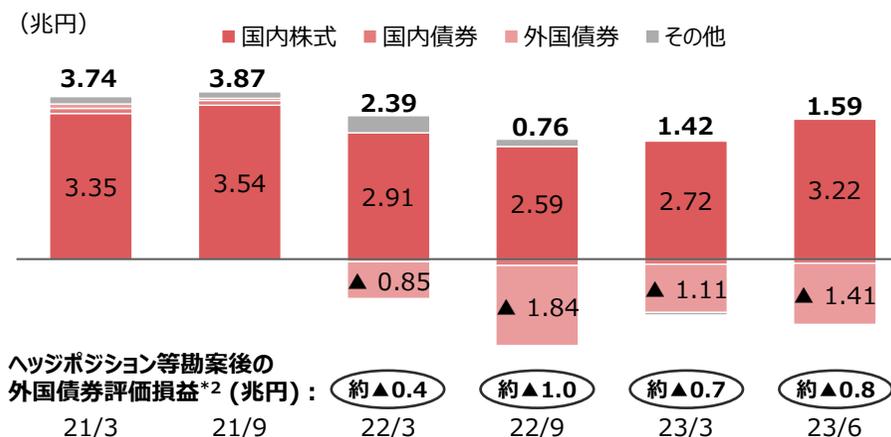
有価証券（時価あり）の内訳

(億円)	23年6月末残高		評価損益	
		23/3比		23/3比
1 満期保有目的	230,371	15,170	-	-
2 その他有価証券	589,020	▲62,189	15,948	1,746
3 国内株式	47,636	4,917	32,258	5,051
4 国内債券	263,092	▲34,426	▲1,010	189
5 うち国債	209,122	▲26,066	▲797	66
6 その他	278,292	▲32,680	▲15,299	▲3,494
7 うち外国株式	4,669	585	▲775	▲119
8 うち外国債券	186,470	▲30,631	▲14,134	▲2,972 ^{*1}
9 その他	87,152	▲2,634	▲390	▲403

国債の残存期間別残高（2行合算）^{*3}



その他有価証券評価損益の推移



政策保有株式の売却実績（概数）^{*5}

(億円)	売却額	取得原価ベース	売却損益
1 15-20年度合計	15,450	8,700	6,750
2 21年度	4,700	1,690	3,010
3 22年度	4,250	1,540	2,710
4 23年度 1Q	480	150	330
5 21-23年度 売却目標		5,000	
6 未売却の売却合意残高*6 (23/6末)	-	1,560	-

ディスクレーム

本資料には、当社又は当社グループの業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。かかる記述は、現時点における予測、認識、評価等を基礎として記載されています。また、将来の予想、見通し、目標、計画等を策定するためには、一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし前提（仮定）は、その性質上、将来その通りに実現するという保証はなく、客観的には不正確であったり、実際の結果と大きく乖離する可能性があります。そのような事態の原因となりうる不確実性やリスクの要因は多数あります。その内、現時点において想定しうる主な事項については、決算短信、有価証券報告書、ディスクロージャー誌、Annual Reportをはじめとした当社の公表済みの各種資料の最新のものをご参照ください。

本資料における計数・表記の定義

- 業務粗利益： 信託勘定償却前連結業務粗利益
- 業務純益： 連結業務純益（一般貸倒引当金繰入前、信託勘定償却前）
- 親会社株主四半期純利益： 親会社株主に帰属する四半期純利益
- ROE（MUFG定義）：
$$\frac{\text{親会社株主四半期純利益} \times 4}{\{ (\text{期首株主資本合計} + \text{期首為替換算調整勘定}) + (\text{期末株主資本合計} + \text{期末為替換算調整勘定}) \} \div 2}$$
- 与信関係費用総額： 与信関係費用（信託勘定）＋一般貸倒引当金繰入額＋与信関係費用（臨時損益）＋貸倒引当金戻入益＋偶発損失引当金戻入益（与信関連）＋償却債権取立益
- 連結： 三菱UFJフィナンシャル・グループ（連結）
- 2行合算： 三菱UFJ銀行（単体）と三菱UFJ信託銀行（単体）の単純合算
- DS： デジタルサービス事業本部
- R&C： 法人・リテール事業本部
- JCIB： コーポレートバンキング事業本部
- GCB： グローバルコマースバンキング事業本部
- 受財： 受託財産事業本部
- GCIB： グローバルCIB事業本部
- 市場： 市場事業本部
- 銀行： 三菱UFJ銀行
- 信託： 三菱UFJ信託銀行
- 証券： 三菱UFJ証券ホールディングス
- MUMSS： 三菱UFJモルガン・スタンレー証券
- ニコス： 三菱UFJニコス
- MUAH： 米州MUFGホールディングス
- MUB： MUFGユニオンバンク
- KS： クルンシィ（アユタヤ銀行）
- FSI： First Sentier Investors
- MS： Morgan Stanley